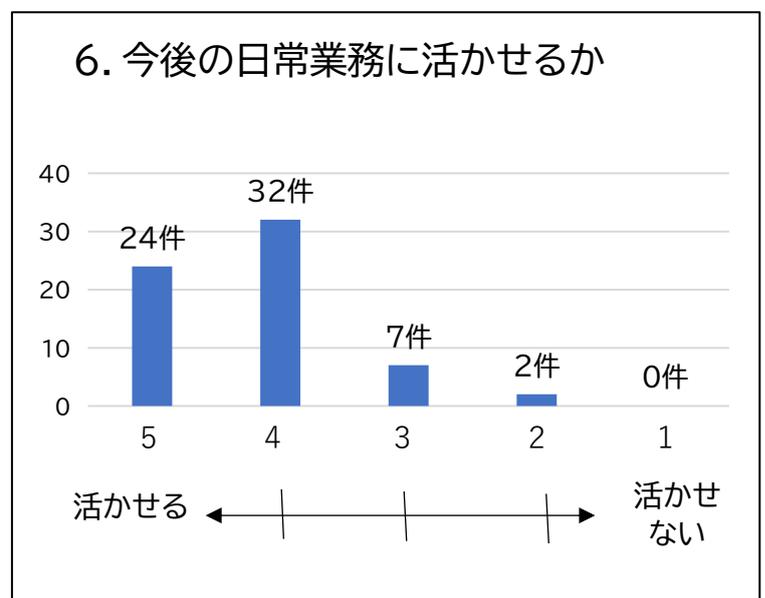
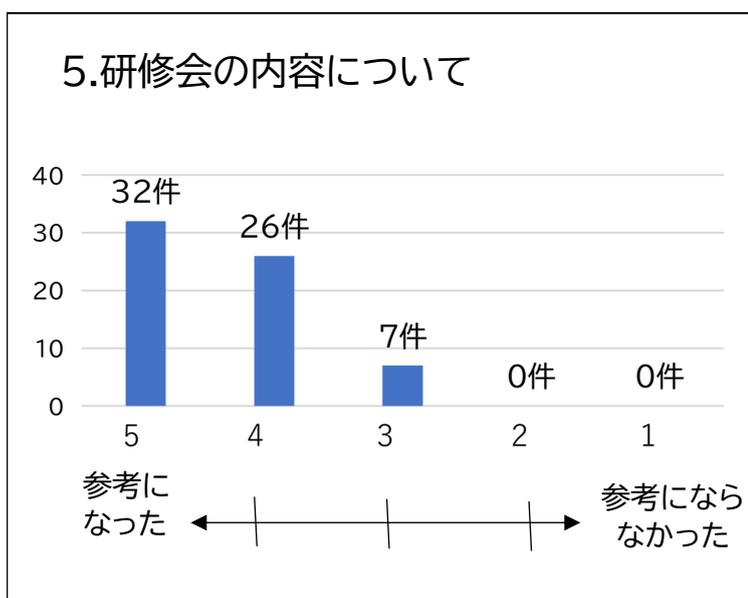
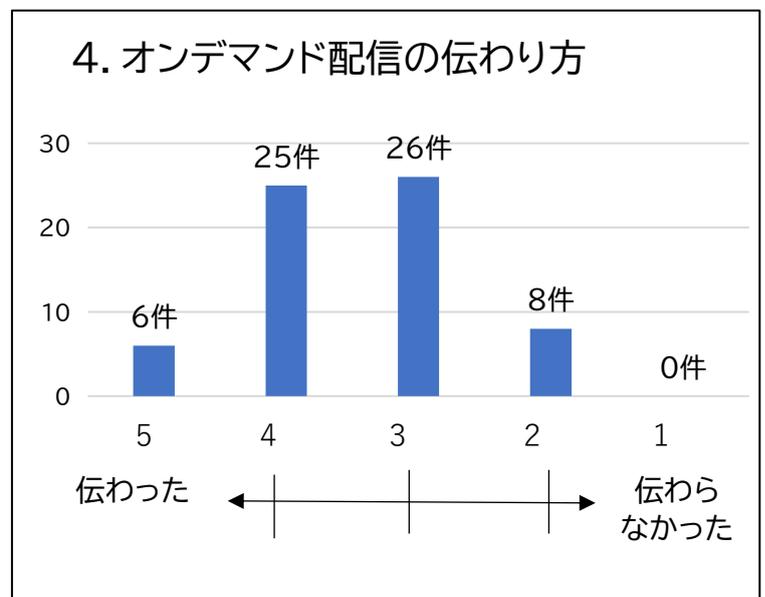
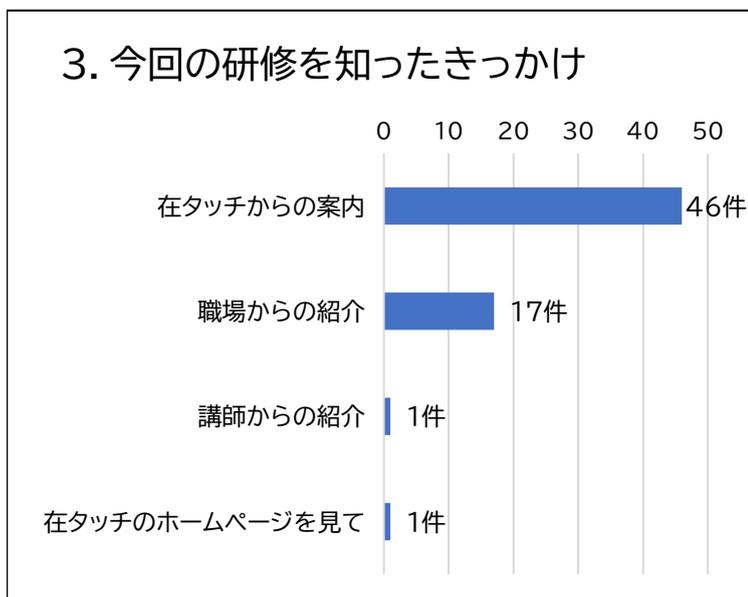
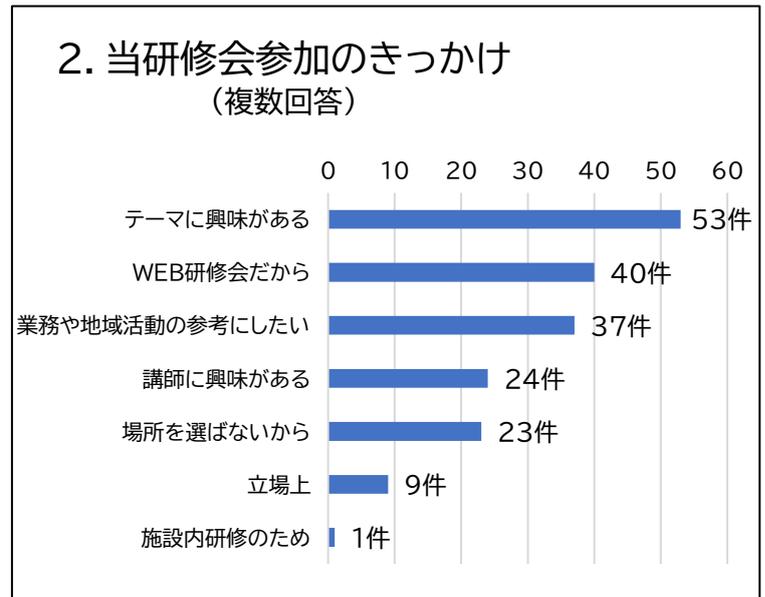
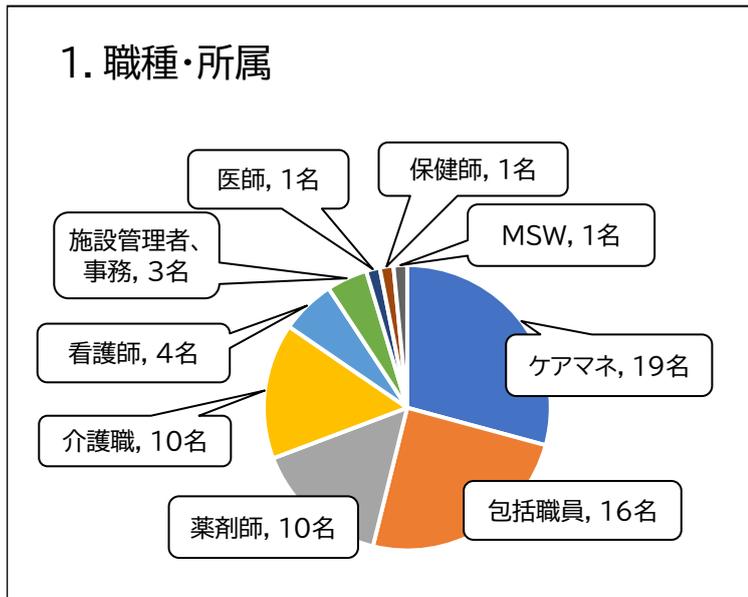


第17回 多職種連携 医療・福祉セミナー アンケート集計表 (8/17~8/24開催)

申込者:192名、視聴回数:358回再生(視聴回線:約171件)
アンケート回答者:65名



7. 感想、参考になった内容(アンケートより一部掲載)

・身体的衰えだけでなく、精神的や社会的での衰えにもフレイルの言葉を用いる事を知った。また、茂木先生の「相手の様子を事実として捉え、無理に理解しようとしなくてもいい事、相手を無理に変えようとせず、自分の行動で見せていく方法など、介護する側もされる側も無理しすぎない関わり合いで良い」という話には、日々緊張しながら仕事している中で、ホッとする気持ちを持った。

・フレイルについて目標を見失っている状態の脱却が大切、小さな気づきを大切に患者さんに接してみようと思った。

・事例を通してだからこそ、人物像やストレングスを見出し支援の道筋をつけるための生活歴を聞く目的であることがよく理解できた。また、孤独感を感じている方への存在意義の評価を愛情をもって継続する事で行動変容を促せることも言語化されたことで改めて理解を深めることが出来た。日常業務での指導しきれない部分を職員と共有ができて良かった。

・誰のためのアセスメントなのか、何のためのアセスメントなのか。聞きたいことと、話したいことは違うという事に皆さんの話を聞きながら気づくことが出来た。ご本人の持っているストレングスに、本人も支援者も気づくための会話の重要性、無駄なことはないと感じた。社会的フレイルまで意識して、対峙していなかったことに気づかされた。

・本人が言語化できない部分を、どのようにしたら本人に気づいてもらえるのか。本人の過去や行動をモニタリングし、表情で感情を読み取りフィードバックしてあげる事で、言語化につながるきっかけだったり、どのように暮らしたいのか、生きていきたいのかを本人自身が気づくきっかけになる。フレイルは、身体的機能を改善するだけでは難しい。社会的なつながりを持って、生きている価値を感じる事が大事。そのためにも、本人のストレングスを見つける。孤独にさせない。